

<認知症対応型共同生活介護用>  
<小規模多機能型居宅介護用>

## 評価結果報告書

### 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	10
1. 理念の共有	1
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	4
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	1
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	5
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	7
1. その人らしい暮らしの支援	5
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	23

事業所番号	1494100215
法人名	株式会社 愛誠会
事業所名	はなまるホーム座間
訪問調査日	令和4年9月5日
評価確定日	令和4年9月15日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

#### ○項目番号について

外部評価は20項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

#### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[次ステップに向けて期待したい内容]

次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

#### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

令和 4 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1494100215	事業の開始年月日	令和4年3月1日
		指定年月日	令和4年3月1日
法人名	株式会社 愛誠会		
事業所名	はなまるホーム座間		
所在地	( 〒252-0028 )		
	神奈川県座間市入谷東4-10-2		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2 ユニット
自己評価作成日	令和4年8月25日	評価結果 市町村受理日	令和4年10月21日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の方々が主役となって生活していただけるように、できることへは参加していただいています。食事は毎食手作りを大切にして、入居者の方々に参加していただきながら準備しています。その他掃除や洗濯も参加していただき、ここで生活していると感じていただけるよう心がけています。

コロナウイルス感染症があり、自由には過ごしていただけていませんが、毎月のイベントや日々の買い物、地域への参加等今後状況をみながら過ごしていただけるよう取り組んでまいります。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒231-0023 横浜市中区山下町74-1 大和地所ビル9F		
訪問調査日	令和4年9月5日	評価機関 評価決定日	令和4年9月15日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

●この事業所はアイセイ薬局グループの株式会社愛誠会の経営です。アイセイ薬局グループでは「医療と介護の融合・連携」を理念に掲げており、株式会社愛誠会はアイセイ薬局グループの介護事業を担っています。同法人は東京都・神奈川・千葉・埼玉・山梨・静岡県で介護付き有料老人ホーム・軽費老人ホーム・グループホーム・小規模多機能・デイサービス・訪問看護などの高齢者介護・福祉サービスを提供しています。ここ「はなまるホーム座間」は令和4年3月に開設した、神奈川県で3つ目のグループホームです。立地は小田急線「座間駅」からバスに乗り「幼稚園入り口」下車して徒歩5分程の住宅地の一角にあります。

●事業所の開設から半年が経ち、入居者も徐々に増え、職員もある程度定着してきた現状において、管理者・職員問わず「介護に対する思いや目指すケア」について話し合いながら、事業所における「ケアの方向性・ケア方針」を模索しながら、基盤づくりに注力しています。職員においては、グループホームでの勤務経験のある職員は少ないですが、介護経験者は多く在籍しており、グループホームの特性や他のサービスとの違いについて理解を促しながら、入居者が主役となって生活できる環境作りを心がけています。

●コロナ禍での開設ということもあり、地域との交流や近隣の方を招いての行事開催などは行えませんでした。感染症の状況を考慮しながら地域との交流を図って行きたいと考えています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	12 ~ 16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	17 ~ 23
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	はなまるホーム座間
ユニット名	一階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	はなまるホーム座間の方針を決め、スタッフと共有し実施を目指している。	会社としての企業理念・行動指針と職員で話し合っ て作成した事業所の理念を事務所に掲示していま す。理念は「ご入居される方々が生活の主役・主体 となってその方らしく暮らす場所を目指します。い つまでも『はなまるの笑顔』でお元気に、季節を大 切に楽しみのある暮らしを目指します。『自由』を 大切に、出来る限り制限のない暮らしを目指しま す。」とし、全職員で作成した理念に沿ったケアが 実践できるよう会議で理念を確認しています。	今後の継続
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられる よう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流 している	オープン当初よりコロナウイルス感染症の蔓延によ り交流できていない。	事業所は今年の3月に開設し、2月の内覧会に近隣 の方が来所された際に、グループホームの特性など について説明し、理解を深めていただく機会となり ました。一時コロナ感染者が減少していた時期には 入居を連れて近隣のスーパーに買い物に行くなどし て、社会との関わりを維持できるようにしていまし た。今後は子供との関わりを持てるようにしてい きたいと考えています。	今後の継続
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の 人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活 かしている	介護相談窓口を設置。地域の方で認知症でお困り の方の話が聞けるよう地域貢献している。認知症カ フェへ管理者が関わらせて頂いたり、民生委員の 方々へグループホームの説明会を実施。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評 価への取り組み状況等について報告や話し合いを行 い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルス感染症の蔓延により書面での報告と 共に意見書をいただきサービスに活かさせていただ いている。	開設当初からコロナ禍ということもあり、未だ対面 での開催はできていませんが、2ヶ月ごとに事業所 の現状や活動状況・行事・ヒヤリハットについて報告 しています。その際、家族から同意を得られている 方については写真も添付して表情などが分かるよう にしています。返信用封筒にて意見書をいただき、 サービス向上に努めています。	今後の継続
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所 の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えなが ら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議での報告の他に、確認させていただ きたいことや相談事等密に連絡をさせていただいて いる。	2月の内覧会に座間市の担当者が来訪していただき 、開設にあたり気になる点等について助言をいただき ました。また、生活保護受給者の受け入れを行って いる関係で生活援護課とは、必要に応じて連絡を取 り合い、介護保健課とは不明点や判断に迷う事案が 生じた際に相談・助言をいただくようにし、協力関 係の構築に努めています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修等で身体拘束について知識を得られるよう取り組んでいる。玄関やリビングについてはスタッフの配置や玄関先の構造上転倒のリスクが高いため施錠させていただいている。	入職時研修で身体拘束が禁止されていること、行わない方針であることを伝えていきます。研修においても年1回以上は身体拘束について取り上げ、該当する行為や言動によっても身体拘束に該当することを具体例を持ち寄りながら学ぶことで、正しく理解できるようにしていきたいと考えています。身体拘束等の適正化委員会を設置し、2ヶ月に1回は身体拘束について話し合う機会を設けています。	今後の継続	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	研修等で虐待防止について知識を得られるよう取り組んでいる。	身体拘束と同様に、入職時研修で虐待についても禁止されていることや行わない方針であることを伝えていきます。虐待防止に関する研修も年1回以上取り入れ、虐待の定義について学ぶ機会を設けていきたいと考えています。身体拘束等の適正化委員会を設置し、2ヶ月に1回は虐待について話し合う機会を設けています。	今後の継続	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	認知症ケアを日々スタッフと情報共有しながら検討し実施している。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学等の段階から疑問や不安については尋ねるよう心がけ、契約時の際も確認し理解をいただいている。			
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議でご家族より意見をいただけるようにしている。また、日頃からご家族からの意見があった際は反映できるよう共有している。	毎月郵送している「はなまるレター」は体重の変動・往診結果・近況報告などが記載されており、毎月の様子がわかるようにしています。また、運営推進会議も家族からの意見をいただけるよう、生活や活動の様子を報告書としてまとめ、報告に対する意見をもう止めるようにしています。直近では、家族からの要望もあり、オンライン面会できるよう事業所のLINEアカウントを作成して対応しています。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の会議や日頃からのスタッフとのコミュニケーションから意見を聞ける機会を設けている。	開所1年目であり、今後の体制作りを行っていくうえで、職員と積極的にコミュニケーションを取りながらケアの方針や業務の確立に取り組んでいます。管理者も現場に入っており、出退勤時に限らず業務や休憩時間にも意見や提案を聞く機会を設けています。毎月の会議（ユニット会議・全体会議）でも職員が発言できる機会を設けると共に、申し送りや業務日誌にも記入してもらうようにしています。	今後の継続
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的な評価制度を設け実施。スタッフへの役割分担を行い、責任をもって担当していただく等努めている。	法人では職員に対してストレスチェックの実施・内部通報システムを設け、管理者を介さずに本社に相談できる体制を整えています。キャリアパス制度もあり、資格を伴う研修受講費用の負担や資格手当、処遇改善手当などもあり、職員の意欲向上につながっています。法人では年2回、「基本行動チェックシート」を基に職員との面談を実施し、管理者の評価を基に法人で評価し、給与に反映される体制になっています。	今後の継続
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	中途採用者用に振り返りシートや自己評価ができる仕組みを設けている。本社研修も実施しており、該当のスタッフが研修を受けられるようになっている。	法人では、入社時研修(新卒)・スキルアップ研修・ケアマネ研修・アイセイ薬局グループと連携して行われる研修など多岐に亘る研修があります。事業所でも採用時には法人の社是・企業理念・行動指針について話し、1ヶ月を目安にOJTで業務や利用者に関する情報を把握できるよう指導を行っています。	今後の継続
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	本社研修では、他はなまるホームのスタッフと交流できるようになっている。また、オープン前に他はなまるホームを見学し学べるよう取り組んでいる。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居されてから慣れてこられるまでは、できる限り関わりを多く持ち、ご本人の不安や心配事を確認できるよう心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学当初から確認するよう心がけ、入居後も何かあれば連絡させていただき気になることがあれば仰っていただくようお願いしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族へは現状を確認し、ご本人へは都度様子を確認しながら必要とされていることの把握に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	今までされていたことや、現在できることはご自分でやっていただき、役割や生活を感じていただけるよう心がけている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者の今までの生活歴や様子を伺ったり、日々の様子をお伝えし協力していただけることは相談する等、関わりを大切にしている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルス感染症の蔓延により、家族との自由な面会や外出ができなくなっているが、通常は自由な面会外出ができることとなっている。また入居時は使い慣れた湯飲みや家具、布団を持ってきていただき安心できる環境に努めている。	入居時の面談で本人・家族・居宅介護支援専門員から本人にとって馴染みの人や思い出の場所などに関する情報を聞き取り、アセスメントシートに記入して職員間で情報を共有しています。現在は感染症拡大防止のため面会の受け入れは中止しています。また、スマートフォンや携帯電話を持ち込まれている方もおり、自由に連絡を取り合ってください。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事席は自由となっており、好きな方と一緒に過ごせるようになっている。また、様々な生活活動に皆さんで参加していただいている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在サービス利用が終了された方がいらっしやらないため評価できません。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の様子や家族、関係やの方々からの聞き取り情報をもとに、意向の把握に努めている。	入居時は、事前前面談で本人・家族・居宅介護支援専門員から過去の生活歴・既往歴・暮らし方の希望を聞き取りながらアセスメントシートを作成しています。家族からは食事や生活のリズムを整える・皆で楽しく過ごしてもらいたいという意向が多く、家族の意向を尊重したうえで、日々の関わりから思いや意向の把握に努め、思いや意向に沿った支援につなげています。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケアマネや関係者、ご家族から聞き取りしスタッフ全員への情報共有に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子を記録し、特記事項に関しては業務日誌や朝の申し送りで情報共有する等、現状把握に努めている。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族や関係者とは必要に応じ連絡を取り合いながら確認し、スタッフ間では毎日の情報共有や毎月のカンファレンスで意見を出し合い介護計画を作成している。	アセスメントシートを基に初回の介護計画を作成し、1,2カ月を目安に様子を見ながら細かな情報収集を行っています。日々のケア内容や本人の様子などは介護記録や業務日誌などに記録し、毎月のカンファレンスで情報共有を兼ねてアセスメントを行い、ケアの課題や支援方法について検討し、より良く暮らすための介護計画を作成しています。介護計画の見直しは半年を基本としていますが、状態の変化が生じた際には都度見直しを行い、現状に即した介護計画を作成しています。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録に記入している。業務日誌へ特記を記載するなど情報共有し介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	介護計画のみではなく、日々の様子に対して柔軟に対応できるよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	知人との関係性や、今までのケアマネ等関係されてきた方々とも関わりを維持できるよう心がけている。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の有無を確認し、現在来ていただいている医療機関の説明をしご家族から希望を伺っている。健康管理は毎週来ていただき実施されている。歯医者は希望の方のみ口腔内のケアや治療をされている。	入居時にかかりつけ医の有無を確認し、本人・家族の希望を尊重して主治医を決めていただくようにしています。現在は全員が事業所の協力医療機関から月2回の訪問診療を受診しています。訪問看護師は同クリニックから週1回入居者の健康管理に来ていることから、情報共有もされていることから適切な医療が受けられる支援体制が整っています。また、法人がアイセイ薬局グループであり、主治医の往診時に薬剤師が同行していることから、その場で薬に関する助言をもらえることも職員の安心につながっています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週健康管理時に報告し指示をいただくとともに、急変があった際は連絡している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	現在入院された方がいらっしゃらないため評価実施できません。入院された際は常時情報交換し現状の把握に努めるよう心がける。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化された方がいらっしゃらないため評価実施できませんが、契約時「重度化した場合における方針」の説明を行い、事業所でできることや医療関係機関との連携については説明し同意をいただいている。	事業所では医療行為を必要としない場合に限り看取りを行うとしており、「重度化した場合における指針」も作成しています。契約時に「重度化した場合における指針」について家族に説明した上で同意書をいただいています。まだ開設して半年程で、重度化している方もいませんが、今後を見据えて看取りの研修を取り入れていきたいと考えています。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の連絡体制を事務所に掲示し、入社時には内容を確認している。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	6月に防災訓練を実施。12月にも防災訓練を実施予定。今後も自然災害等の想定し訓練を実施していく。	避難訓練は火災と地震想定で年2回（6月・12月）実施すると定めています。現状では消防署の職員立ち合いによる訓練は実施できていませんが、今後は消防署の職員に立ち合いの下で実施したいと考えています。備蓄品については現在選定中であり、年内には防災倉庫の設置と必要最低限の備蓄品を揃える予定としています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室への入室時はノックし本人に一声確認している。トイレや入浴等の際も本人に失礼の無いように声掛けし関わらせていただいている。	入職時研修や入職後も定期的な研修を行うとともに、申し送り会議などで、接遇・マナー・倫理について話し合う機会も設けています。利用者一人ひとりの人格や個性を尊重し、尊厳や自尊心を傷つけることのないよう、言動や対応に十分留意しています。また、個人情報や守秘義務についても周知徹底しています。居室への入室、排泄支援を行う際にはプライバシーや羞恥心に配慮して対応しています。	今後の継続	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	散歩や入浴等本人の希望・意向を確認し自己決定できるよう関わらせていただいている。	/		/
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間等以外はできる限り自由に過ごしていただけるよう支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えは自分で選んでいただき、朝の西洋はご自分で行っていただいている。			
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事では食べたいものを伺ってみたり、食事の準備や片付けは参加していただいている。	各ユニット毎に、職員がメニューを考え、食材の買い出し・調理しています。食材を地元の商店で調達することで地域に還元しています。出来る方には、調理・下膳・食器洗いや食器拭きなどを手伝っていただき、残存能力の維持につなげています。の役割を担っていただいています。時にはファーストフードや即席麺を提供したりすることもあります。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量を日々把握し、摂取が少ない方には声掛けや召し上がっていただけるものを用紙する、食事席を変えて一緒に召し上がりたい方と同じ席で食事をする等支援している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後ご自分で歯磨きをしていただいている。必要に応じスタッフが声掛け関わっている。			
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレに行かれた際は見守り、できる限りパッド等を使わずご自分でトイレに行かれ排泄できるよう支援している。	排泄チェック表を用いて、一人ひとりの排泄状況の把握し、時間やタイミングを見計らった声かけによるトイレ誘導で、排泄の自立に向けた支援を心がけています。オムツの使用を控える、かつ失敗を減らせるよう、カンファレンスやモニタリングで支援方法を検討しながら支援を行っています。		今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々水分量の把握や体を動かすことへ参加していただき、便秘予防に取り組んでいる。			
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	週2回の入浴を基本に、入浴は曜日を決めているが本人に確認し意向を確認している。入浴したくないときは翌日に変更する等工夫している。入浴剤を用意して、その時の気分で使用していただいている。できる限りの同性介助を心がけている。	週2回の入浴を目安としていますが、入浴日や時間は本人の希望を尊重しながら柔軟に対応しています。安全安心に入浴していただくため、入浴前にはバイタルチェックと本人の希望を確認したうえで入浴を促したり、衛生面に留意して一人の入浴ごとにお湯の入れ替えを行っています。時には入浴剤や季節のお風呂などで気分を変えて入浴していただくようにしています。		今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自由な時間に居室に戻り休んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師と情報共有し薬の情報やセット、服薬対応をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	月に一度は季節の行事を企画。日々の中でできることは関わっていただき、やりがいや役割を感じていただくように心がけている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルス感染症の蔓延により外出は控えているが、買い物や行事での外出・外食等支援を検討している。本来はご家族とも自由に面会や外出・外泊ができることとなっている。	コロナウイルス感染症蔓延により、人混みへの外出支援は自粛していますが、天気や気候が良い日には事業所の裏庭で外気浴や近所の公園まで散歩にお連れし、気分転換していただくようにしています。ドライブでひまわり畑・相模川（桜）・相模原北公園（アジサイ）にお連れし、季節を体感してもえるよう支援しています。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が金銭を管理されることは控えていただいている。買い物時にスタッフの代わりに清算をしていただく等心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご自分で電話を持たれている方は自由に電話されている。希望があれば電話できるようになっている。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は自由に過ごしていただき、毎日皆さんで掃除している。温度等不快にならないよう心がけている。	共有空間は皆が集って過ごす空間であることから、常に整理整頓を心がけ、毎日の清掃も欠かさず行っています。また、室温や湿度の管理は職員によって管理され、居心地よく快適に過ごせる空間づくりがされています。ソファは窓際に設置し、テレビも壁掛け式にすることで、利用者の動線も考慮した配置になっています。	今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席は自由になっており、その時々でソファに座られたり好きな方と同じ席に座っていただけるようになっている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅に合った使い慣れたものを持ってきていただいている。家具の配置等は家族や本人にお任せし、自由に使用していただいている。ベッド・カーテン・中型のタンス・エアコン・照明は備え付けになっている	全ての居室には介護用ベッド・カーテン・タンス・エアコン・照明が完備されており、自宅で使用されていた寝具・家具・テレビ・家族写真などを持ち込んでいただき、配置は本人と家族で落ち着いて過ごせる居室とするよう設置していただいています。仏壇や冷蔵庫を持ち込んでいる方もおり、各々の生活空間が作られています。	今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレは手すりを設置、ご自分でできることはやっけていただいている。居室には名札もあり、ご自分で自由に戻っていただいている。下駄箱も入居時にご自分で取りやすい場所を選んでいただき名札をつけていただいている。		

## 目 標 達 成 計 画

事業所 株式会社 愛誠会  
はなまるホーム座間

作成日 令和4年9月5日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	35	災害時の備えが整っていない。オープン間もない為防災訓練の実施が少ない	定期的な防災訓練の実施と、備えの準備	防災訓練の予定決定と備えの用意	令和4年12月末
2	34	事故や急変時の対応について、学べる機会が必要	研修等を取り入れながら学べる機会をつくる	毎月の会議内で事故や急変時の対応方法を学ぶことができるよう準備	達成期間を設けず随時継続的に実施
3	27	仕組みはあるが個別の記録をケアプランに沿った内容で常に残せていない	ケアプランの把握とケアプランに沿った記録	ケアプランを見えるように設置しスタッフが確認しながら記録できるようにする	達成期間を設けず随時継続的に実施

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。

事業所名	はなまるホーム座間
ユニット名	二階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない



自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	はなまるホーム座間の方針を決め、スタッフと共有し実施を目指している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	オープン当初よりコロナウイルス感染症の蔓延により交流できていない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護相談窓口を設置。地域の方で認知症でお困りの方の話が聞けるよう地域貢献している。認知症カフェへ管理者が関わらせて頂いたり、民生委員の方々へグループホームの説明会を実施。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルス感染症の蔓延により書面での報告と共に意見書をいただきサービスに活かさせていただいている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議での報告の他に、確認させていただきたいことや相談事等密に連絡をさせていただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修等で身体拘束について知識を得られるよう取り組んでいる。玄関やリビングについてはスタッフの配置や玄関先の構造上転倒のリスクが高いため施錠させていただいている。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修等で虐待防止について知識を得られるよう取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	認知症ケアを日々スタッフと情報共有しながら検討し実施している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学等の段階から疑問や不安については尋ねるよう心がけ、契約時の際も確認し理解をいただいている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議でご家族より意見をいただけるようにしている。また、日頃からご家族からの意見があった際は反映できるよう共有している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の会議や日頃からのスタッフとのコミュニケーションから意見を聞ける機会を設けている。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的な評価制度を設け実施。スタッフへの役割分担を行い、責任をもって担当していただく等努めている。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	中途採用者用に振り返りシートや自己評価ができる仕組みを設けている。本社研修も実施しており、該当のスタッフが研修を受けられるようになっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	本社研修では、他はなまるホームのスタッフと交流できるようになっている。また、オープン前に他はなまるホームを見学し学べるよう取り組んでいる。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居されてから慣れてこられるまでは、できる限り関わりを多く持ち、ご本人の不安や心配事を確認できるよう心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学当初から確認するよう心がけ、入居後も何かあれば連絡させていただき気になることがあれば仰っていただくようお願いしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族へは現状を確認し、ご本人へは都度様子を確認しながら必要とされていることの把握に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	今までされていたことや、現在できることはご自分でやっていただき、役割や生活を感じていただけるよう心がけている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者の今までの生活歴や様子を伺ったり、日々の様子をお伝えし協力していただけることは相談する等、関わりを大切にしている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルス感染症の蔓延により、家族との自由な面会や外出ができなくなっているが、通常は自由な面会外出ができることとなっている。また入居時は使い慣れた湯飲みや家具、布団を持ってきていただき安心できる環境に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事席は自由となっており、好きな方と一緒に過ごせるようになっている。また、様々な生活活動に皆さんで参加していただいている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在サービス利用が終了された方がいらっしゃらないため評価できません。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の様子や家族、関係やの方々からの聞き取り情報をもとに、意向の把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケアマネや関係者、ご家族から聞き取りしスタッフ全員への情報共有に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子を記録し、特記事項に関しては業務日誌や朝の申し送りで情報共有する等、現状把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族や関係者とは必要に応じ連絡を取り合いながら確認し、スタッフ間では毎日の情報共有や毎月のカンファレンスで意見を出し合い介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録に記入している。業務日誌へ特記を記載するなど情報共有し介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	介護計画のみではなく、日々の様子に対して柔軟に対応できるよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	知人との関係性や、今までのケアマネ等関係されてきた方々とも関わりを維持できるよう心がけている。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の有無を確認し、現在来ていただいている医療機関の説明をしご家族から希望を伺っている。健康管理は毎週来ていただき実施されている。歯医者は希望の方のみ口腔内のケアや治療をされている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週健康管理時に報告し指示をいただくとともに、急変があった際は連絡している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	現在入院された方がいらっしゃらないため評価実施できません。入院された際は常時情報交換し現状の把握に努めるよう心がける。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化された方がいらっしゃらないため評価実施できませんが、契約時「重度化した場合における方針」の説明を行い、事業所でできることや医療関係機関との連携については説明し同意をいただいている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の連絡体制を事務所に掲示し、入社時には内容を確認している。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	6月に防災訓練を実施。12月にも防災訓練を実施予定。今後も自然災害等の想定し訓練を実施していく。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室への入室時はノックし本人に一声確認している。トイレや入浴等の際も本人に失礼の無いように声掛けし関わらせていただいている。			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	散歩や入浴等本人の希望・意向を確認し自己決定できるよう関わらせていただいている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間等以外はできる限り自由に過ごしていただけるよう支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えは自分で選んでいただき、朝の西洋はご自分で行っていただいている。			
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	行事では食べたいものを伺ってみたり、食事の準備や片付けは参加していただいている。			



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量を日々把握し、摂取が少ない方には声掛けや召し上がっていただけるものを用紙する、食事席を変えて一緒に召し上がりたい方と同じ席で食事をする等支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後ご自分で歯磨きをしていただいている。必要に応じスタッフが声掛け関わっている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレに行かれた際は見守り、できる限りパッド等を使わずご自分でトイレに行かれ排泄できるよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々水分量の把握や体を動かすことへ参加していただき、便秘予防に取り組んでいる。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週二回の入浴を基本に、入浴は曜日を決めているが本人に確認し意向を確認している。入浴したくないときは翌日に変更する等工夫している。入浴剤を用意して、その時の気分で使用していただいている。できる限りの同性介助を心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自由な時間に居室に戻り休んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師と情報共有し薬の情報やセット、服薬対応をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	月に一度は季節の行事を企画。日々の中でできることは関わっていただき、やりがいや役割を感じていただくように心がけている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルス感染症の蔓延により外出は控えているが、買い物や行事での外出・外食等支援を検討している。本来はご家族とも自由に面会や外出・外泊ができることとなっている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が金銭を管理されることは控えていただいている。買い物時にスタッフの代わりに清算をしていただく等心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご自分で電話を持たれている方は自由に電話されている。希望があれば電話できるようになっている。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は自由に過ごしていただき、毎日皆さんで掃除している。温度等不快にならないよう心がけている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席は自由になっており、その時々でソファに座られたりお好きな方と同じ席に座っていただけるようになっている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅に合った使い慣れたものを持ってきていただいている。家具の配置等は家族や本人にお任せし、自由に使用していただいている。ベッド・カーテン・中型のタンス・エアコン・照明は備え付けになっている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレは手すりを設置、ご自分でできることはやっけていただいている。居室には名札もあり、ご自分で自由に戻っていただいている。下駄箱も入居時にご自分で取りやすい場所を選んでいただき名札をつけていただいている。		

## 目 標 達 成 計 画

事業所 株式会社 愛誠会  
はなまるホーム座間

作成日 令和4年9月5日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	35	災害時の備えが整っていない。オープン間もない為防災訓練の実施が少ない	定期的な防災訓練の実施と、備えの準備	防災訓練の予定決定と備えの用意	令和4年12月末
2	34	事故や急変時の対応について、学べる機会が必要	研修等を取り入れながら学べる機会をつくる	毎月の会議内で事故や急変時の対応方法を学ぶことができるよう準備	達成期間を設けず随時継続的に実施
3	27	仕組みはあるが個別の記録をケアプランに沿った内容で常に残せていない	ケアプランの把握とケアプランに沿った記録	ケアプランを見えるように設置しスタッフが確認しながら記録できるようにする	達成期間を設けず随時継続的に実施

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。